

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここいろチルル		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 4日		～ 2025年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 4日		～ 2025年 1月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの特性に応じて、情報伝達の配慮や空間づくりを工夫をしている。	・集団活動では、全体で楽しさを共有できるような空間利用をしている。 例) 全体で盛り上がるプログラム、小グループでお友だち関係を意識できるプログラム ・個別活動では、個々の課題に集中できるような場所の使い方の工夫や配慮をしている。 例) 仕切りの利用、お友だちと一緒にならできる・頑張る配置	・視覚優位、聴覚優位の子どもの特性を踏まえて、だれもがわかりやすく居心地の良い空間づくりを工夫する。 ・スタッフのチームワークにより、連続性のある支援を目指す。
2	・こども理解と特性に応じた専門性のある支援に心がけている。	・学校や家庭からの引継ぎにより、日々変化する子どもの様子(成長・発達のみちすじ)をふまえて、毎日の支援プログラムの組み立てに活かしていく。	・支援プログラムの内容を共有し、日々の支援に活かしていく。 ・子どもの特性への理解を深め、支援後の振り返りを活かしていく場をつくる。
3	・保護者や学校など関係機関からの信頼を得ている。	・保護者や学校の担任の先生との情報共有を大切にしながら、日々の子どもの様子や背景について共通理解を深めている。	・子どもの成長(発達のみちすじや節目)を多角的視野でとらえて、意見交換する場を設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもの興味関心を広げる取り組みについて	・小学1年生から6年生という成長発達が著しい時期にあって、興味や関心事が変化するため、活動のプログラムに工夫が求められる。	・変化する興味関心事に対応していく事も必要であり、一方で一定期間の実施を経て評価し、対応していく事も必要である。そのため、日々の記録は客観的に記入し、評価検証できるようにする。
2	・事故防止、非常災害への対策、緊急時対応などの計画と訓練について、保護者への周知と説明の対応	・利用する曜日や頻度によって、子どもの参加できる訓練が固定化する傾向にある。 ・子どもの特性によっては、非常時にどのような反応が出現するか予測が難しい。	・年間行事や安全計画の更新時には、子どもの反応を予測しての計画と訓練を引き続き実施することを保護者に周知と説明をする。 ・また、保護者には、予想される子どもの反応や行動などを聞き取りして、計画に反映させていく。
3	・家族に対しての家族支援プログラム(ペアレントトレーニング)や家族も参加できる研修会、さらに情報提供など	・家族の要望や相談事に応じていくためのスタッフのスキルアップが求められる。	・家族からの意見や要望を受け止め、検討し、支援業務に反映するために日々の振り返りやケース会議等で忌憚のない意見交換の場を設ける。 ・外部研修への参加を進める。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	こころチルル
------	--------

公表日 2025年 3月 21日

利用児童数 22名

回収数 2 2部

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応	
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	7		9	運動では、少人数など活動に工夫をしているので十分だと思うが、身体が大きくなり成長するともう少し広さが欲しい。	今後も、運動や制作など活動内容に合わせて空間の活用を工夫していきます。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22					現在の配置を継続していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	1		3	空間について説明を聞く機会がないため分からない。	今後も集団・個別活動などに合わせて、全体で楽しさを共有できる環境と個別に集中できる環境を設定して行きます。個々の活動の様子を伝える際には、工夫の下での効果を伝えていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	1				毎日の掃除や、整理整頓とともに、感染対策の徹底を実施して心地よく過ごせるようにします。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22				子どもの発達に合わせて、また特性に合わせて無理なく支援していただいている。	支援に困った時は、スタッフ間で意見交換を行い、家庭や学校、相談支援事業所とも連携をとりながら進めています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21			1		年間の支援プログラムを基本に個々の支援計画が乖離しないように、年に2~3回見直しの意見交換をしています。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22					保護者との面談をもとに、本人、保護者の要望とケース会議を踏まえて作成しています。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	1				保護者との面談をもとに、本人、保護者の要望とケース会議を踏まえて作成しています。また、日々の支援を具体的に明記し、どのスタッフも対応できるようにしています。	
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					計画に掲げた支援内容を日々の支援に具体化しています。また、振り返りを通じて次に引き継いでいます。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22				楽しみながら体を動かすプログラムを考えていただき感謝している。	今後も、子どもの興味や要望、発達に寄り添ったプログラム内容を工夫していきます。	
保 護 者 へ の 説 明 等	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	2	2	13	利用日ではないが地域の子ども食堂との交流はあると聞いている。 参加していないためわからない。	法人内の事業所合同イベントを通じて、地域の季節の行事と一緒に参加していきます。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21					引き続き、丁寧に説明をしていきます。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					計画作成の面談の際、支援内容を確認しながら進めています。配布時に直接記入するようにお願いしています。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	6	4	6	いつも相談にのっていただき有難い。 ペアレントトレーニングはないが、イベントや面談がある事は承知している。	今後も依頼があれば対応していきます。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	22					丁寧に子どものことをみてくださっている。	今後も保護者と意思疎通を図りながら、子どもの支援に活かしていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22					いろいろとアドバイスを頂けてとても心強い。	保護者より依頼があれば、丁寧に対応していきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22					とても思う。いつも感謝している。 いつも親身にお話を聞いていただき感謝している。	今後もスタッフ間で共通理解のもと、子どもや保護者の理解と支援に努めていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	2	6	9	姉と同じ曜日にイベントがあれば入れるようにしてくれている。	今後も依頼があれば対応していきます。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19			3		安心して相談が受けられるように、今後も周知・説明をして、迅速に対応していきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22				いつも報告いただく写真がとても楽しみ。様子を知る事ができ、安心感も大きい。	引き続き、子どもや保護者との円滑な意思疎通のために工夫していきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	2	1	1		随時、送迎時や公式LINEにて連絡をするとともにホームページやインスタグラムにて情報発信していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21					引き続き、個人情報については慎重に取り扱っていきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1		6		適宜見直しと更新を行い、丁寧に説明をしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	1		6		引き続き、定期的に訓練を行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1		2		引き続き、安全計画について周知するとともに支援に活かしていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19			2		引き続き、事故等が発生した際は、速やかな連絡と報告をします。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21				子どもはのびのびと過ごしており、コーチにも信頼を寄せている。	保護者と子どもの要望に応えられるように安心安全で楽しく過ごせるように努めていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21				お友だちやスタッフに会うのをいつも楽しみにしている。もっと何かしたい、遊びたい要求が出てきた。	引き続き、子どもの興味や成長に合わせた活動内容を工夫していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21				大満足ですありがとうございます。子どものことをよく分かってくださり、本当に感謝している。	スタッフ間で情報共有を図りながら、支援の質向上に努めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ここいろチルル				公表日		2025年 3月 22日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		0		定員全員が利用する日の集団活動では、グループ分けや立つ（座る）位置を目印で示し、効果的な支援に繋げている。	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		4	1	配置基準を守りながら、その日の子どもの状態に応じてスタッフの人数を増やす事がある。		同法人内でのスタッフのヘルプはあるものの、スタッフの急な休みへの対応は検討していきたい。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5	1	子どもの主体的な行動を促すために、活動予定の可視化や特性に応じた声かけ、活動しやすい動線に工夫している。		子どもの成長や発達に応じて、玩具や用具の置き場などを臨機応変に変えるようにする。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		子どもの特性に応じて、子ども同士の距離に配慮しながら支援を行っている。おやつや昼食後の机や床の清潔に努めている。		複数でにぎやかに遊びたい子どもと、ひとりで静かに過ごしたい子ども、それぞれが落ち着ける場の工夫をしていく必要がある。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		5	1	クールダウンする、集中する場として事務室を利用したり、マットで囲いなどをしてマイスペースをつくっている。		事務室に入ることはできるが、プレイルームの音が聞こえる為、集中できるほどの環境ではない。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		6		個別支援計画の更新時にケース会議を行っている。また支援前や送迎後に、業務や支援についての振り返りや意見交換を行っている。		アルバイトのスタッフも参加しやすいような会議や意見交換の場を必要に応じて設けることが課題である。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4	1	日々の送迎や面談の際に、ご意見・ご要望をうかがっており、可能な限り、支援や業務に反映させている。		評価表の結果を真摯に受け止め、業務改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5	1	支援前や送迎後などその都度、支援や業務について質問や意見を受け止め、改善につなげるようにしている。		子どもの特性についての理解や支援の方法について、また支援に係る業務について研修や役割分担を話し合っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	3	業務改善に関して質問等が出た場合は、専門家に相談の上、解決している。		業務改善については、定期的に話し合いをしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6		法人として各種研修を実施する際は、各事業所のスタッフができる限り多く参加できる日を設定している。参加できなかったスタッフには、各事業所が個別で対応している。		外部機関の研修についても情報収集しながら、参加を促していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6		ここいろチルルの支援方針に基づきながら、利用者に沿った内容を検討・作成・実施している事を公表している。		利用者の様子と主な内容を計画に反映させるには一定の期間が必要だと考えている。随時更新しながら実施していく事が課題である。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		5		面談や日頃、保護者と話す内容をスタッフ間で共有、検討しながらケース会議を行い、個別支援計画を作成している。		アセスメントや保護者の要望をスタッフ間で共有しながら、個別支援計画の理解と支援の実施を統一していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		5		面談をもとに、スタッフ間でモニタリングとケース検討をして共通理解を図っている。子ども理解のために多様な視点での意見交換をしている。		3か月後、6か月後の子供の成長を見通して、子ども理解を共有し、計画に反映させていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		6		個々の子どもの特性や支援内容をどのスタッフも理解できるように、個別支援計画に沿って情報共有している。		スタッフ一人一人が子どもの特性を理解し、個別支援計画中の留意すべき点を具体化できるように意見交換していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		6		個別支援計画に掲げられた内容の理解を基本として、5領域を踏まえた内容の記録を心がけている。また、随時意見交換を行っている。		子どもの行動について、その背景と客観的な様子、具体的な支援とその結果について整理して記録できるようにする。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		6		保護者記入のアセスメントシートや面談でのお話、ケース会議などで項目毎に検討し整理している。そのうえで、支援のねらいが分かるようにしている。		子どもの特性についての理解や支援の方法について、具体的な取り組みと目標を掲げている。それらをふまえた記録が残るように努めていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5		個々の支援の取り組みを具体化できるように、活動内容について意見交換しながらプログラムを工夫している。		様々な工夫とアイデアを取り入れていくように努めている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		6		子どもの参加状況を評価し、「できた」「やってみよう」という心と体にアプローチできる内容を検討し工夫している。		子どもの参加状況について評価し、次のプログラムに活かしていく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。		6		ケース会議で検討された子どもの特性と成長に合わせて、優先順位を検討しながら支援している。		その日の子どもの状況を学校や家庭と連携しながら	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	前日の振り返りとともに、当日の活動内容と支援のポイントを共有できるように当日スタッフと確認している。必要に応じて、全スタッフと共有し、支援に活かしている。	特定のスタッフに負担がかからないように引き続き意見交換の場を設ける。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	支援中に伝えた方が子どもには効果的な時には、その都度簡潔に伝え、送迎後に振り返りを行っている。	振り返り時の意見交換の場を積極的に設けていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		学校からの引継ぎを受けて、当時の体調や活動への参加の様子、支援のねらいへの評価など、意見交換しながら記録を残している。	日々の支援が次回利用時に活かせるように、記録をもとに引継ぎをしながらチームでの支援につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		次回更新予定の前であっても、子どもの成長いや様子に合わせて保護者との面談の場を設けて適宜見直しを行っている。	3～6カ月後の見直しの下で計画を作成しているが、目標の達成が得られた時や難しい時には適宜見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	5		個別支援計画に盛り込みながら、多角的な支援が行われるように工夫している。	3～6カ月後の見直しの下で計画を作成しているが、目標の達成が得られた時や難しい時には適宜見直しを行う。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		集団活動、個別活動など活動の状況に合わせて、本人の言葉や行動を先取りしないように配慮して支援に当たっている。	本人へのアンケートに取り組んできたが、対象を広げて意志表示、意思決定を促す支援とする。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児童発達管理責任者が、事前に他のスタッフに聞き取りをしたり、日々の記録をもとに報告している。参加後は、共有に努めている。	引き続き、放課後デイサービスでの様子を報告するとともに、必要な情報の共有と意見交換をする。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		学校や放課後デイサービスでの様子や取り組みを学校とも共有し、連携した支援を行う体制が取れている。	引き続き、連携体制を維持していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		保護者を通じて、行事や送迎時間の変更など情報共有を図っている。お迎え時間の急な対応には直接学校に連絡をしている。	引き続き、連携体制を維持していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		保護者との面談などを通じて、就学前の情報を受け取っている。	保護者との面談を基本に、必要に応じて相談支援事業所を通じて情報の共有を図ってきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	現在は、小学校までのご利用であり、対応はしていない。次の進路の中学校に向けては、必要に応じて情報の提供を行う事になる。	今後必要に応じて、対応を検討していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		今のところ連携や研修の場は設けてはいない。	今後必要が生じた場合は、行うようにする。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	地域の季節の行事に法人合同で参加し、地域の他の子どもたちと交流する機会がある。	今後も積極的に参加し、交流していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	今のところ参加してはいない。	今後必要が生じた場合は、参加するようにする。
保護者への説明	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日頃より送迎時や相談があった際に、また定期的な面談にて情報共有して、共通理解に努めている。	引き続き、子どもの発達の様子について共通理解のもと支援に活かしていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	家族が参加できる研修やイベントをチラシ配布で案内している。ペアレントトレーニングは今のところしていない。	今後、依頼があれば実施していく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時や改正が行われた際は、丁寧に説明を行っている。	引き続き、丁寧な説明をしていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		日頃から、送迎や面談にて保護者からの要望や意見を受け取っている。子どもには必要に応じて個別にアンケートを実施し、意見表明の機会を設けている。	引き続き、利用にあたっての要望や意見を真摯に受け止めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		面談での内容が更新した計画に反映されているか確認のうえで、要望や意見は直接記入してもらおうことで同意を得ている。	今後さらなる説明が必要が生じた時は丁寧に支援内容を説明していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談や要望に応じて、適宜対応をしている。	引き続き、相談等を受けた場合は丁寧に対応と支援をしていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	2	今のところ、父母の会はない。要望も受けてはいない。子どもの利用状況に合わせて、きょうだい一緒にイベント参加は対応している。	今後も依頼があれば、対応していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情への対応体制は取っている。苦情が届いた際は、事実の確認を早急に行い丁寧に対応している。	

等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		定期的な会報を発行はしていないが、インスタグラムや公式LINEにて、活動や行事予定など情報を伝えている。	年度初めには、主な年間行事と季節の取り組みなどを伝え、協力と理解をお願いする。日々の詳しい連絡や活動内容は、引き続き、インスタグラムやSNSで実施する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		細心の注意を払い、徹底して取り組んでいる。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		意思疎通や情報伝達が正確になるように、子どもの個々の特性に応じて、シンプルな文字や絵カード、サイン、声かけなどを工夫している。保護者には、公式LINEや電話にて丁寧に行っている。	引き続き実施するとともに、より良い方法を目指していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	今年度は、地域に案内する行事は開催しなかったが、新年には、近隣住民の方に子どもたちと一緒にあいさつ回りをした。	日頃から、近隣住民の方とはスムーズな人間関係が築けるように、今後もあいさつ回りをしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルを策定している。その日の利用者に合わせて、スタッフと子どもが訓練に参加している。	利用者に合わせているため、利用のない子どもや勤務以外のスタッフは参加できない事が多い。実施日に工夫して参加者を増やしていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		業務継続計画を策定し、定期的に訓練を行っている。	訓練での課題を次の計画に反映させて、さらに有効な訓練を実施していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		新規契約時には、服薬やてんかん発作、さらに特に注意すべきことなどを確認している。	今後も必要に応じて対応していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	今のところ食物アレルギーのある子どもの利用はない。	今後は、必要に応じて対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、研修や訓練を実施している。また、備品等の整備、AED設置場所の確認などを行っている。	引き続き、利用者の状況に合わせて計画を更新する。実際の場面で活かされるようにスタッフ間での情報共有をしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		計画に基づく取り組みを実施した後、参加した子どもの保護者には報告している。	取り組みに参加していない子どもの保護者への報告ができていなかった為、今後は計画及び報告をすべての保護者向けに周知する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハットが発生した際、迅速にスタッフ間で共有し、再発防止への対策を行っている。	ヒヤリハットへの対策が、次の業務の改善につながることを念頭に今後も対応していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		全てのスタッフを対象に虐待防止の研修を行っている。背景となる業務改善を行い、子どもの特性への理解が深まるように意見交換をしている。	勤務年数に関わらず、発達・変化する子どもの特性への理解を深めるための忌憚のない意見交換と研修が必要と考える。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束を想定している利用者は、今のところいないが、組織的に基準を決めている。	身体拘束を行う可能性のある利用者がある場合は、十分に説明をする。	